

## 3都市（北京・上海・東京）における 若年層の「食」のスタイルを比較



### 調査背景

中国は1990年以降、GDPの年平均成長率が9.0%と急速な経済発展を遂げました(図1)。この発展を象徴するように、2008年8月には北京でオリンピックの開催が予定され、ますます世界的に注目を集めています。

めざましい発展を遂げている中国では、人々の消費行動が変化しています。特に、新富裕層の87%が40歳未満という調査結果もあり、改革開放路線の恩恵や、新しい教育を受けた、70年代以降生まれの経済的に裕福な層に強い購買力を持つことが注目されています。この層は、ブランドを重視したり、購入前にできるだけ多くの情報を収集するなど、これまでにない消費スタイルを持っています。悠久の歴史を持つ中国の食文化においても、この層から新しいスタイルが広まっていくことが予想されます(図2)。

そこで、生活科学研究室では、日中での「食」に関する意識や行動の違いを把握することを目的に、今後の中国市場を牽引していくであろう北京、上海の20-30代の中高所得者と、東京の同年代の人々を対象とし、アンケート調査を実施しました。

図1 中国の国内総生産(GDP)の推移

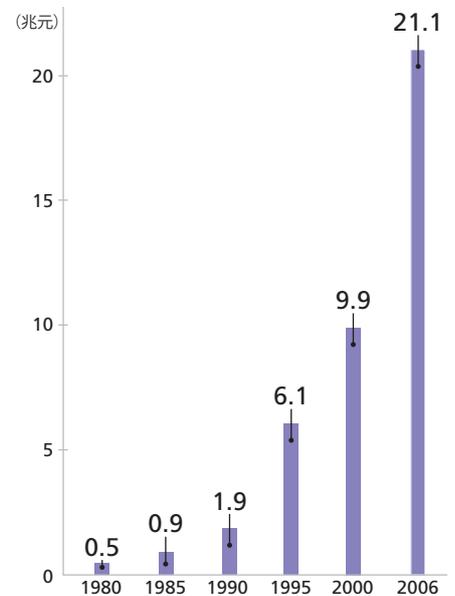
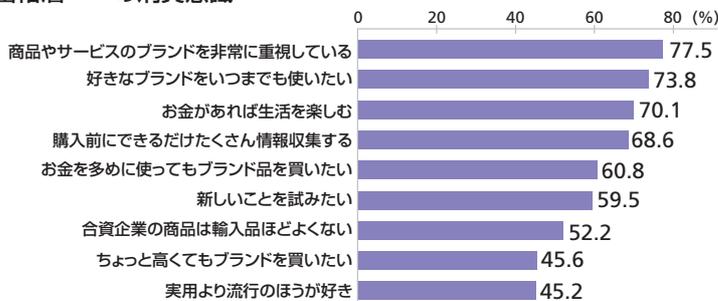


図2 新富裕層(※)の消費意識



2007年 新世代市場監測機構 「中国ニューリッチ市場とメディア研究」

調査対象：中国の新富裕層10,207人

※新富裕層：1級都市の世帯年収8万元以上あるいは個人年収6万元以上、  
2級都市の世帯年収6万元以上あるいは個人年収4万元以上の18-50歳と定義

### 目次

「食卓の風景」比較	2
「調理実態」比較	4
「食用油使用実態」比較	6
北京・上海・東京の家庭料理	8
考察	8

# 「食卓の風景」比較

「夕食をよく一緒に食べる人」を、家族と一緒に住んでいる人についてみると、北京・上海では、父、母、友人など複数人で食えることが多く、特に休日でその傾向はより強く表れています。また、北京の男性は平日、休日にかかわらず、仕事関連の人と食事するとの回答が多いのが特徴的です。東京では、平日の夕食が北京・上海と比べて高い孤食率となっています。また、東京の男性は、休日に子供と一緒に食事を取る割合が平日に比べ大きく増加していることから、平日には子供と一緒に食事を取れない父親像が見えます。

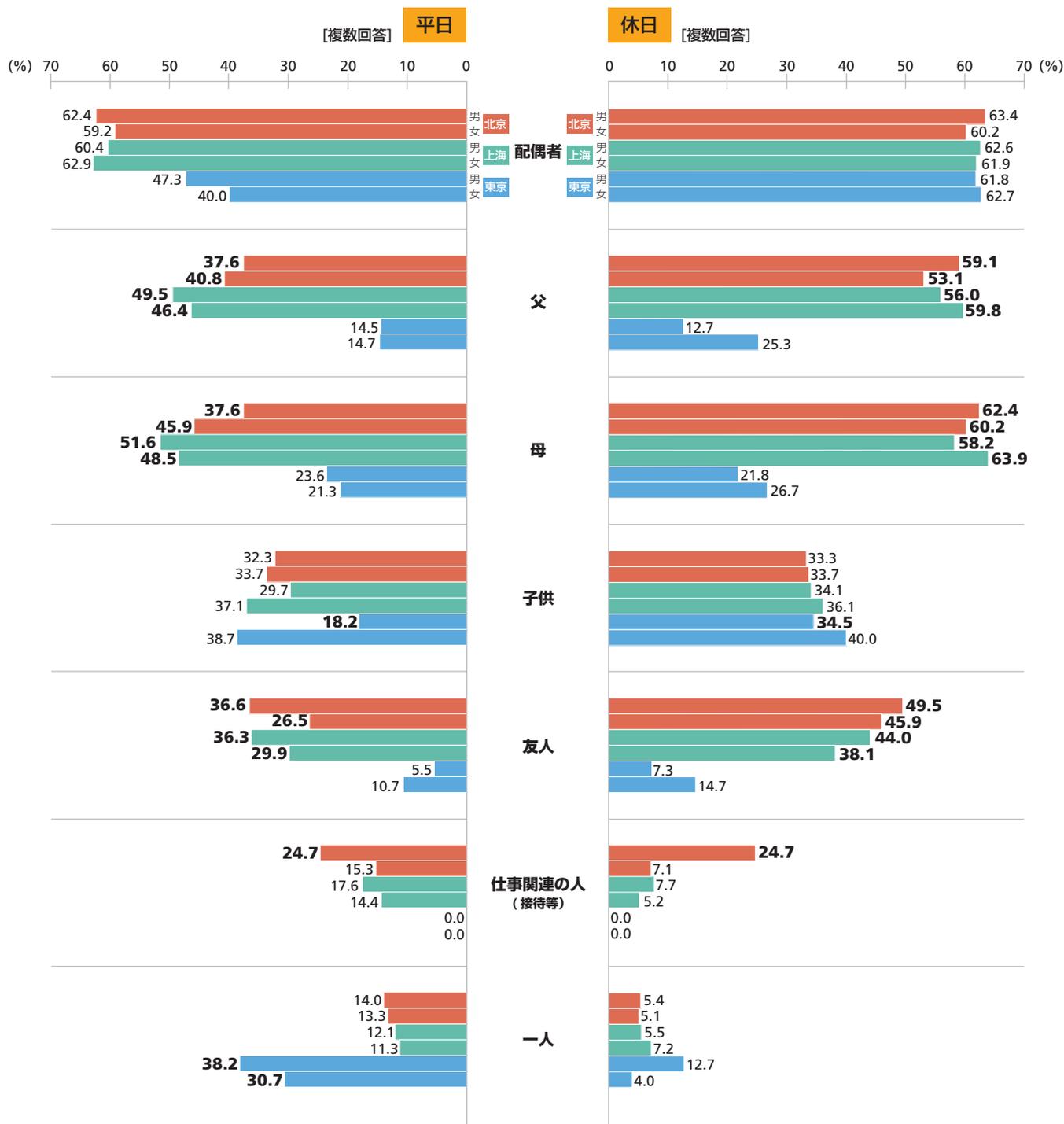


〈北京〉

夕食をよく一緒に食べる人  
〈家族と同居している人〉

北京 (男) n=93 (女) n=98 上海 (男) n=91 (女) n=97 東京 (男) n=55 (女) n=75

\*各都市 [上帯: 男性] [下帯: 女性]



「夕食のおいしさに重要なこと」について、北京・上海では「家族」に関する項目が高く、おいしく食べるためには家族が集うことが重要であることがうかがえます。また、食べ慣れた味を好む傾向がある一方で、新しい料理・味が入っていることも重要視をしています。経済発展、オリンピックの開催に伴い、食に関する新たな情報も入ってきている様子が見えます。一方、東京では、「料理」そのものに対するこだわりが見えます。

独りで食べるのに慣れてしまってるな……



〈東京〉

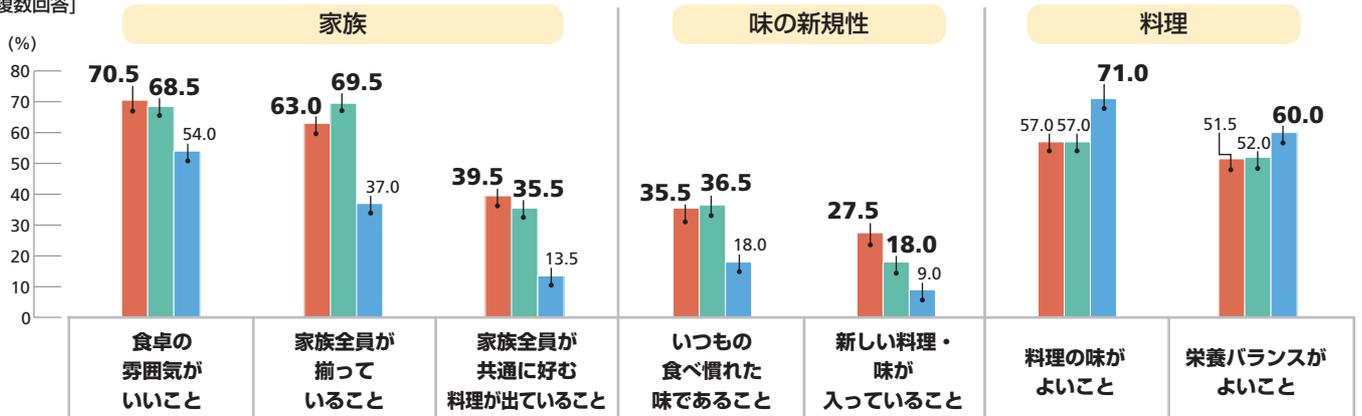
「自分が子供に身につけたい食事のマナー」について、食べ残し、食事中にする他のことなどについては、3都市とも共通して高い結果でしたが、東京では食器の持ち方や姿勢、挨拶など、形式を重視する傾向が見られました。

「今後の食生活をどのように変えたいか」について、北京・上海では健康を重視する声が多くあげられました。一方、東京では栄養バランスを考える、品数・野菜を増やすなど具体的な意向が示されましたが、特に無しと答えた人が35%もいたことは特徴的でした。食生活について無関心のようにも見えますが、充実していることの表れととらえることもできます。

### 夕食のおいしさに重要なこと

北京 n=200 上海 n=200 東京 n=200

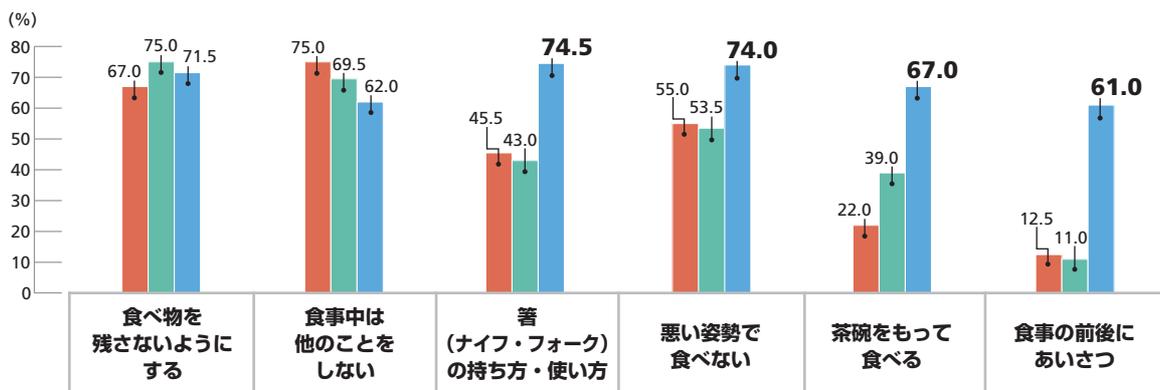
[複数回答]



### 自分が子供に身につけたい食事のマナー

北京 n=200 上海 n=200 東京 n=200

[複数回答]



### 今後の食生活をどのように変えたいか

[自由回答] (%)

	1位	2位	3位	
北京 n=200	健康重視した食事 30.5	栄養バランスを考えた食事 17.5	栄養がある食事 11.0	特に無し 1.5
上海 n=200	健康重視した食事 27.5	栄養がある食事 14.5	おいしい食事 9.5	特に無し 3.5
東京 n=200	栄養バランスを考えた食事 12.5	品数を増やした食事 8.5	野菜が多い食事 7.5	特に無し 35.0

# 「調理実態」比較

料理って楽しい



「普段の夕食を作る人」について、北京・上海では東京と比較して同居している割合が高いこともあり、母・父の頻度が高く、夕食作りに親世代が存在感を表していることがわかります。

親と同居している人に限ってみても、北京・上海では父親が夕食を作る人として東京の倍程度の回答があり、キッチンでの活躍が目立ちます。一方、東京では親と同居している場合、自分で調理する人が半数以下に減少しており、調理は親元から離れてから行うものである様子うかがえます。

「普段の夕食作りに望ましい人」について、3都市とも、普段夕食作りを行っている人が、望ましい人として、TOP3にあがっていることから、おおむね望まれる人が行っている姿が見えてきます。しかし、東京の女性に限ると、自分が作るべきと考えている人が圧倒的に多いものの、配偶者へ望む割合が実際に作っている割合よりも高く、配偶者が調理をすることへの期待が見られました。

## 普段の夕食を作る人 〈全体〉

北京 (男) n=100 (女) n=100  
上海 (男) n=100 (女) n=100

\*各都市 [上帯：男性] [下帯：女性]

## 普段の夕食作りに望ましい人 〈全体〉

北京 (男) n=100 (女) n=100

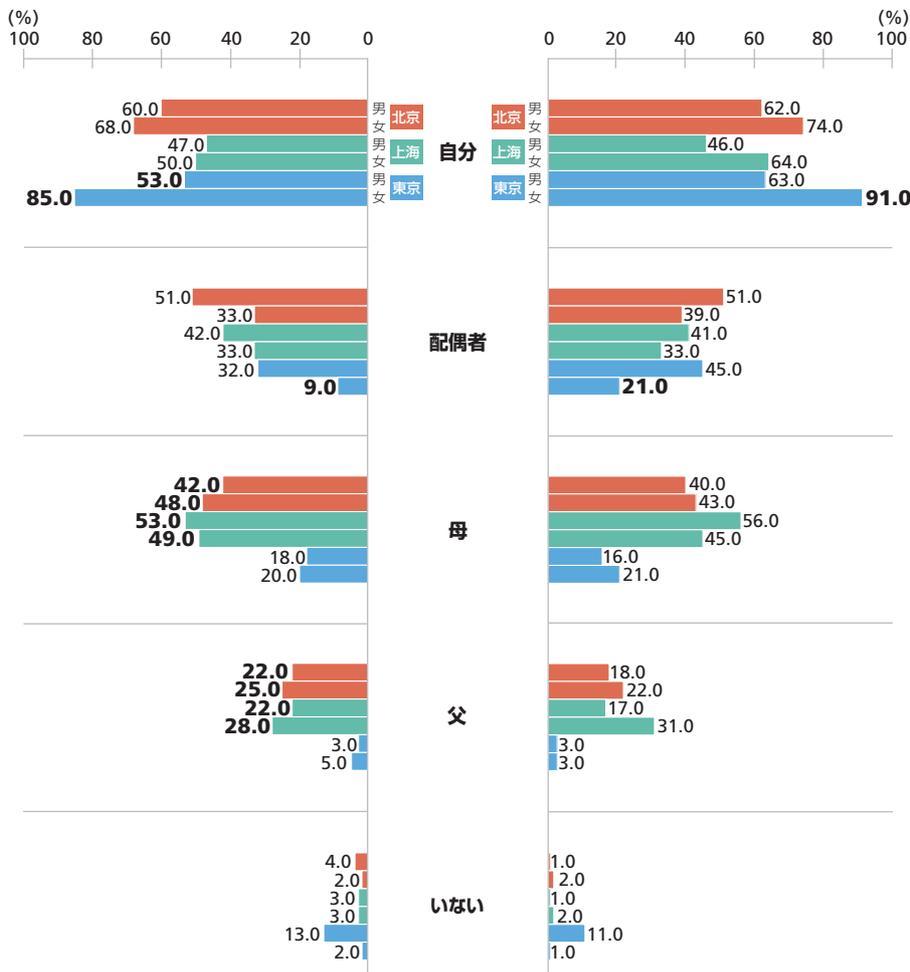
## 普段の夕食を作る人 〈父母と同居〉

北京 (男) n=36 (女) n=40  
上海 (男) n=37 (女) n=46

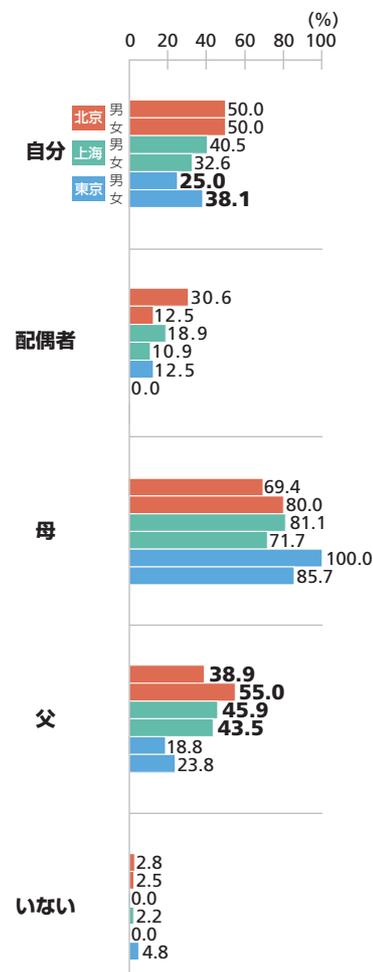
東京 (男) n=16 (女) n=21

\*各都市 [上帯：男性] [下帯：女性]

[上位3人まで回答]



[上位3人まで回答]



「夕食作りにかかる時間」は、東京では半数以上が40分以下で、ほとんど作らない人も約1割と短い傾向がありました。一方、1時間以上の人も多く、二極化が見られます。

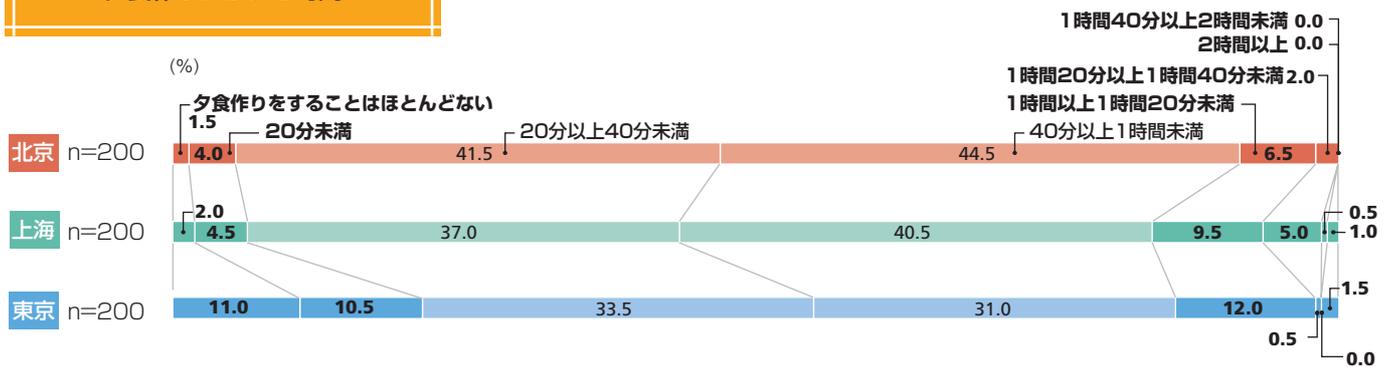
「料理に必要な技術の習得法」については、東京では本・雑誌や、インターネットをあげる人が多く、情報が豊富であることがうかがえました。しかし、調理技術がほとんど身につけていないという人が1割強も見られました。一方、北京・上海では、大人になってから親に教わる人が多く、料理が親から子へ受け継がれているという姿が見えてきます。

「料理することとは？」の問いに対して、北京・上海では楽しいことという答えが多く、男女ともに料理に対するポジティブな姿勢が見えてきました。特に、北京・上海では若干ですが女性と比較して男性の方が楽しいことととらえている人が多いのに対し、東京では男性の方が少なく（5位、7.0%）、意識面でも北京・上海の男性が積極的に調理を楽しむ姿勢が見えてきました。また、東京の女性は、義務／仕事、家族のためと食事作りに使命感を持っている様子が見られました。



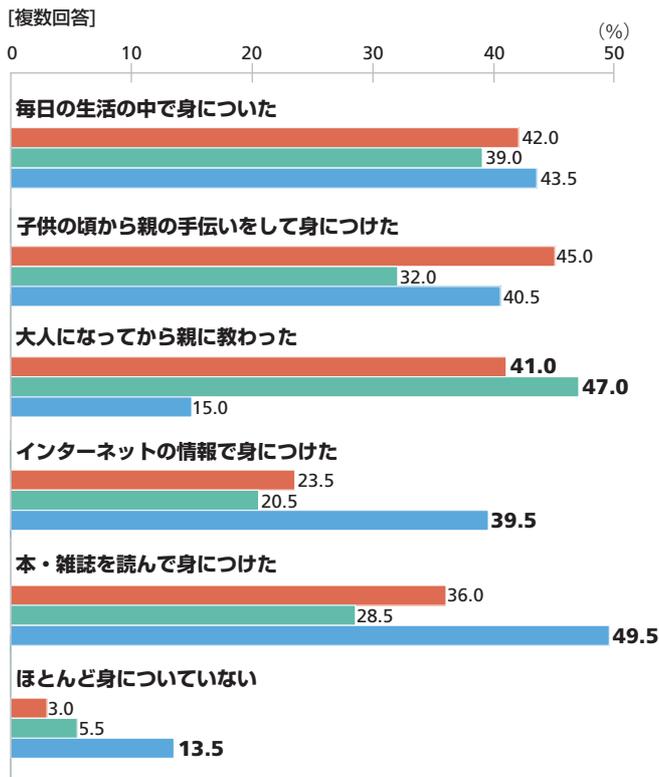
〈東京〉

### 夕食作りにかかる時間



### 料理に必要な技術の習得法

北京 n=200  
上海 n=200  
東京 n=200



### 私にとって料理することは〇〇です

	1位	2位	3位
北京 (男) n=100	楽しいこと 35.0	生活の一部 12.0	苦痛/負担 9.0
北京 (女) n=100	楽しいこと 31.0	生活の一部 13.0	義務/仕事 9.0
上海 (男) n=100	楽しいこと 28.0	生活の一部 14.0	喜び/幸せ 7.0 面倒/手間 7.0
上海 (女) n=100	楽しいこと 27.0	生活の一部 12.0	義務/仕事 8.0
東京 (男) n=100	食べるため (おいしく) 17.0	生活の一部 12.0	面倒/手間 9.0
東京 (女) n=100	義務/仕事 14.0	楽しいこと 12.0 家族のため 12.0	生活の一部 12.0

# 「食用油使用実態」比較

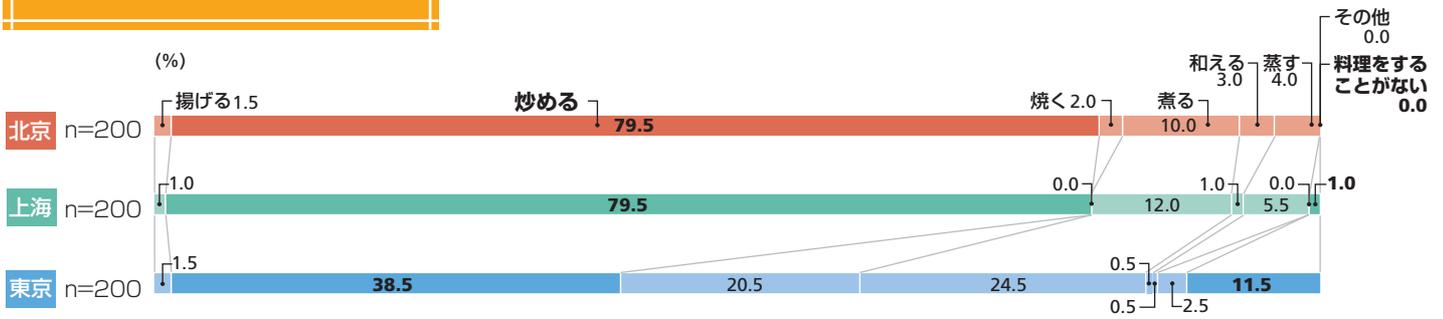


「最もよく行う調理法」について、北京・上海では約8割もの方が炒めると答えましたが、東京では1位の炒めでも4割弱、煮る、焼くも2割前後あり、調理のバリエーションが豊富であることがわかりました。一方で、東京は料理を全くしない人も約1割います。

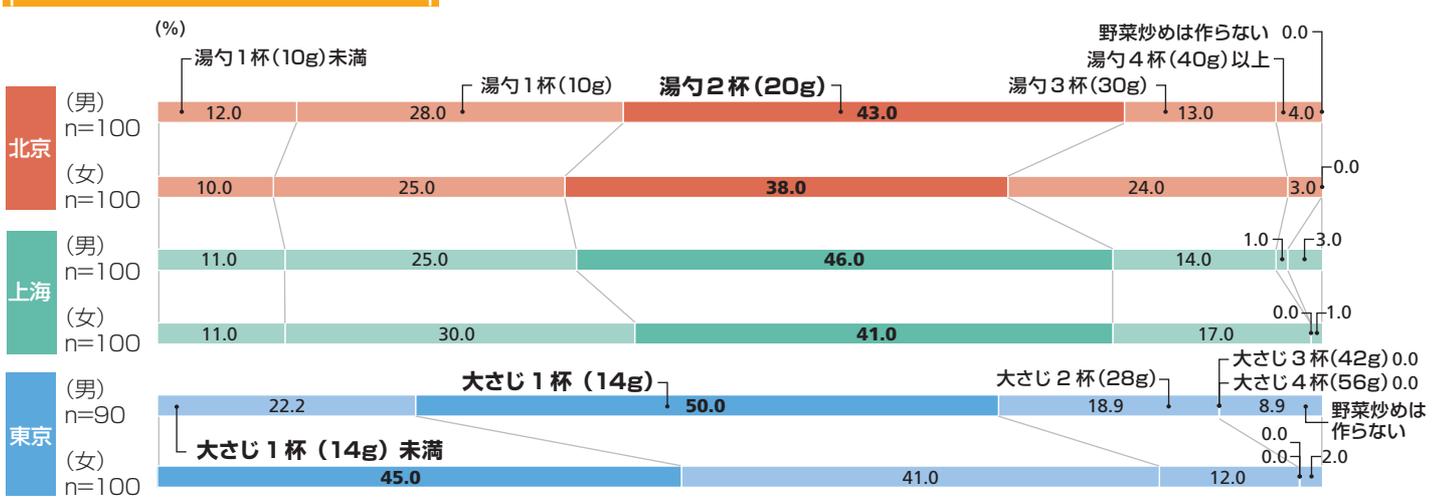
「野菜炒めに使用する食用油の量」を聞いたところ、北京・上海では、湯勺(レンジ)2杯(約20g)がボリュームゾーンだったのに対して、東京では、男性が大さじ1杯(14g)、女性は大さじ1杯未満がボリュームゾーンであり、北京・上海の方が野菜炒めに多くの食用油を使用していました。東京では、女性の方が野菜炒めに使用する食用油の量が少ない傾向でしたが、北京・上海では男女に大きな差は見られませんでした。

「食用油を使用した料理をする際に気になる点」は、3都市とも台所の汚れがトップ項目にあがりました。北京・上海では、臭いの充満や発煙が気になる人が東京と比較して多くいました。食用油の使用量が多いこと、火力が強いこと、一般的な食用油の精製度が低いことなどが理由として考えられます。このためか、中国では食用油からでる煙を吸うと身体に影響があるという考えが広まっているようです。また、東京では、食用油の捨て方が多くあがり、食用油を捨てることに対する環境意識の高さを感じます。

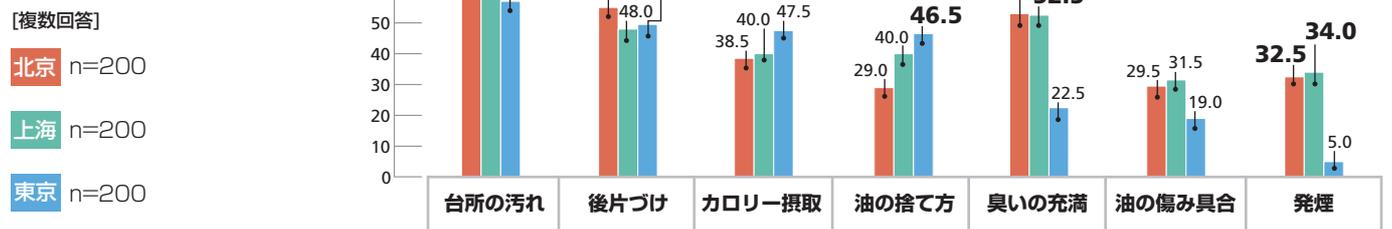
## 最もよく行う調理法



## 野菜炒めに使用する食用油の量 〈食用油を使用した料理を作る人〉



## 食用油を使用した料理をする際に気になる点



「揚げ物を食べることの好意度」を聞いたところ、揚げ物が好きなのは、東京>上海>北京の順で、特に東京では、とても好きと答えた比率が高い結果でした。

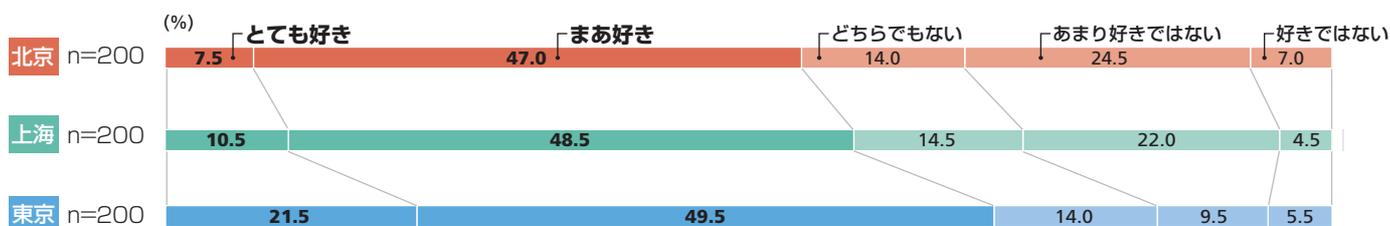
「持ち帰りの揚げ物を食べる場所」について、東京では約9割の人が自宅と回答したのに対し、北京・上海では自宅と答える人が4～5割程度、職場・学校や路上と答える人も1～2割いました。中国では日本のスーパーやデパートで売られるようなお惣菜はほとんどなく、持ち帰りの揚げ物に屋台やレストランのテイクアウト、ファストフードなどを思い浮かべるようです。一方、東京では持ち帰りの揚げ物というと、スーパーやデパートで売られているお惣菜を想起する 경우가ほとんどで、自宅での食事としての役割を担っているようです。



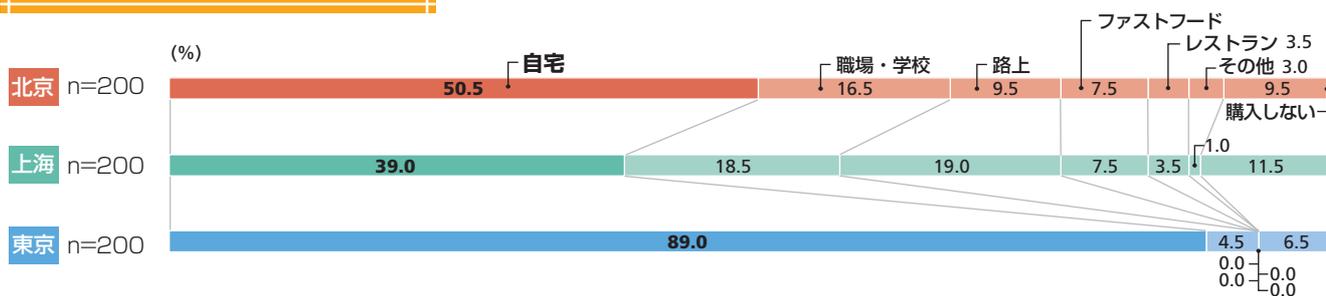
〈上海〉

「持ち帰りの揚げ物の良い点」について、北京・上海ではおいしいという、揚げ物惣菜そのものを評価するポイントが上位にきました。東京では家で調理しなくて済む、手間が省けるなど、持ち帰りの揚げ物を買ったことによって、調理や片付けを行う必要がなくなることを評価する人が多い傾向がありました。

### 揚げ物を食べることの好意度



### 持ち帰りの揚げ物を食べる場所



### 持ち帰りの揚げ物の良い点

[自由回答]  
(%)

	1位	2位	3位
北京 n=200	便利 33.5	おいしい 22.5	手間が省ける 8.0
上海 n=200	便利 34.5	おいしい 25.5	香ばしい 6.0
東京 n=200	家で調理しなくて済む 15.5	手間が省ける 12.5	片付ける必要がない 12.5



## 私たちにとっての家庭料理とはこれです！

「家庭料理」と聞いて思い浮かべるメニュー [3つまで自由回答] (%)

	1位	2位	3位
北京	細切り豚肉の旨辛炒め物 42.0	鶏とピーナッツ/ カシューナッツのトウガラシ炒め 35.0	ジャガイモの炒め物 15.0
上海	豚肉の醤油煮込み 28.5	トマトと卵の炒め物 22.0	麻婆豆腐 12.0
東京	肉じゃが 50.0	カレー 40.0	味噌汁 27.5



鶏とピーナッツのトウガラシ炒め



豚肉の醤油煮込み

写真提供：上海ナビwww.shanghaiナビ.com



トマトと卵の炒め物

写真提供：上海ナビwww.shanghaiナビ.com

## 考察

今回の調査を通じて、中国の今後の「食」について以下のような推察をしました。

- ・ 現在、家庭で作る料理は、ほとんどが中華料理であるが、新しい味や食材に興味がある。今後は各国のメニュー、さまざまな調理法が家庭料理に取り入れられる。
- ・ 料理することにも、持ち帰りの料理を取り入れることにもポジティブであることから、今後も料理をすることについては、ストレスを感じることはない。
- ・ 料理をする技術の習得方法について、大人になってから親に教わることが中心であるが、今後は、情報量が増加することにより、さまざまなチャンネルから習得することになる。

中国では今後も、経済発展などにより物質的豊かさ、充足感から、「食」に関する価値観の変化が推測されますが、家族とのコミュニケーションや家庭の味を親から子へと受け継ぐなど、精神的な豊かさや満ちた食文化は維持して欲しいものです。

日本の「食」については、食に関する情報や多様な食材などに恵まれた豊かさはあるものの、孤食が当たり前になっている現状や、調理離れなどの状況が、中国と比較することで浮き彫りになりました。「食」に関する情報量の豊富さから、今後もアジアへの「食のトレンド」の発信地になると考えられます。これからは、ひとり暮らしの場合でも、ホームパーティーを行うなど積極的に調理を行ったり、コミュニケーションの場となるような食のシーンを取り入れることで、「食」を日常生活の中の「楽しい一場面」にしていくことが望めます。

### 調査概要

調査対象：〈北京・上海〉：20～30代 男女 世帯年収60,000元以上  
〈東京〉：20～30代 男女

サンプル数：600名 (各都市・年代 男女各50名)

調査方法：インターネット調査

実施期間：〈北京・上海〉：2008年3月11日～20日  
〈東京〉：2008年3月11日～18日

### (世帯形態)

■未婚で家族と同居 ■単身 ■夫婦のみ ■夫婦と子供 ■夫婦と親 ■夫婦と親と子供 ■その他



本レポートの文章・データ・イラストおよび写真を許可なく複写、複製、転載することを禁じます。

## 日清オイリオグループ株式会社

■お問合せ先

生活科学研究室

http://www.nisshin-oillio.com

〒104-8285 東京都中央区新川1-23-1 TEL.03-3206-5218



揮発性有機化合物を含まない大豆油の Non-VOCインキを使用しています。